

年 組 名前:

黒トリュフ 人工栽培成功

県森林総研 6年目 北杜で初確認



人工栽培に成功した黒トリュフ

北杜市内

山梨県森林総合研究所と茨城県つくば市の国立研究開発法人「森林総合研究所」は1日、高級キノコの黒トリュフの人工栽培に成功したと発表した。国内では岐阜県に続いて2例目。2018年11月に栽培をスタートしてから6年目で、北杜市内で12個、計200個のトリュフが育っているのを確認した。県森林総研は「今後は技術の確立を目指したい」と話した。

県森林総研によると、トリュフは生きた樹木の根に共生したクリ生して養分を取り入れる「菌の苗木を、18年に北杜市で30根菌」の仲間、菌床を用いた栽培が難しく、人工栽培が本、20年に小菅村で25本植えた。今年9月、植えた木の株元付近の地表面でトリュフが育っているのを確認した。直径2・2〜4・1センチの計12個で、最も重いもので28・8グラムだった。発生した状況などを踏まえると、「人工栽培で出たと判断できる」（県森林総研）という。

トリュフを確認した木の周辺は、発生していない木に比べて土の中の菌の量が多かったという。今年3月までの3年間は菌の量に目立った増減はなく、一定の水を保っていた。県森林総研は「菌の量とトリュフの発生との関連性はまだ分かっていない」としている。

イタリアやスペイン、フランスなど欧州ではトリュフの人工栽培方法が確立しているという。県森林総研は今後、発生の再現性の確認を進め、土壌や気温など発生の条件や

〈雨宮文貴〉

(2024年11月2日付 山梨日日新聞 20面)

問1

山梨県森林総合研究所と森林総合研究所が、黒トリュフの人工栽培に成功したと発表しました。今まで、人工栽培が難しかった理由を教えてください。

.....

問2

山梨県森林総合研究所は、トリュフの菌が共生した何を、どこに何本植えましたか。

.....

問3

トリュフ以外の、世界三大珍味を教えてください。

・トリュフ ・

手法の確立を目指す。林耕太研究員(37)は「一気長に構えてはいたが、出てくるか不安はあった。初めて発生を確認でき、再現性や発生条件を探る次のステップに進むことができる」と話した。

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します

Copyright © 2024 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.